

昭和二十七年二月一日 第三種郵便物認可
昭和二十四年六月二三日国有鉄道特別承認雜誌第一一九九号

經濟論叢

第102卷 第5号

マルクス生誕150年記念号

生産力と生産関係との論理的な関係	出口勇藏	1
経済学批判体系と世界市場恐慌	松井清彦	33
マルクスにおける「国家と経済」.....	島池恭彦 上 惇	60
19世紀中葉における資本の 直接的生産過程	坂本和一	96
思い出すままに	福井孝治	125
マルクスの書簡について	編集委員会	128
トリールのマルクス生誕記念祭記事	編集委員会	131
京都大学経済学部所蔵マルクス・エンゲルス著作(1845—1894)目録	経済学部 調査資料室編	134
マルクス「資本論」100年・マルクス 生誕150年記念論文・記事目録		

昭和43年11月

京都大学経済学会

トリールのマルクス生誕記念祭記事

編集委員会

本学部の大野英二教授は、文学省在学研究員として本年3月からミュンヘンに滞在しておられます。教授は、5月2日—6日、マルクス生誕の街トリール Trier を訪れ、同市でのマルクス生誕150年の記念行事を視察されました。行事の中心のシンポジウムは満員の盛況だった由です。本誌巻頭にかかげた写真は教授が撮られた10葉のうちから、編集委員会を選んだものです。教授が送って来られた2つの資料を抄録して、つぎにかかげます。資料I、IIのあとの註記は大野教授自身が添えられたものです。

(田中真晴記)

〔資料I〕 トリール市広報課発行の „Veranstaltungen in Trier zum 150. Geburtstag von Karl Marx“ (カール・マルクス生誕150年祭のトリールにおける行事)と題するパンフレット記載のプログラム

講演

トリール市主催

3月13日(水) 午後8時

N. Lobkowitz (ミュンヘン), Ursprung und Bedeutung des Marx'schen Entfremdungsbegriffes.

3月20日(水) 午後8時

Maihofer (ザールブリュッケン), Recht und Staat im Denken des jungen Marx.

トリール・カトリック・アカデミー主催「150年後のカール・マルクス」

4月30日(火) 午後4時

Marcel Reding (ベルリン), Karl Marx und die Theologie der Welt von heute.

同日 午後8時

A. Th. Peperzak (ウトレヘト), Der Glücksbegriff des Karl Marx für Individuum und Gesellschaft als Anstoß für die christliche Brüderlichkeit heute.

5月1日(水) 午前10時

Günther Nenning (ウイーン), Die ideologiefreie Gesellschaft des technologischen Zeitalters als Bedrohung für Christentum und Marxismus.

同日 午後3時

講演者たちの壇上討論

テーマ Wie weit geht der Dialog mit den Marxisten?

司会者 Gerbert Meyer (ツァルベルベルク)

シンポジウム

5月5日(日) 午前10時

ドイツ・ユネスコ委員会主催国際シンポジウム

テーマ „Marx heute“

主報者告者 Ernst Bloch (チュービンゲン)

展覧会

5月4日

カール・マルクス生誕の家 (Brückenst. 10) が Karl-Marx-Museumとして、Friedrich-Ebert-Stiftungによる陳列品をそえて公開される。ひきつづいて毎日午前10時から午後6時まで公開。

5月5日—26日

トリール市主催の展覧会 „Karl Marx im Bild“ Simeonstift の市立美術館にて、毎日午前10時—午後6時

集会

4月17日—20日

Institut für Staatsbürgerliche Bildung in Rheinland-Pfalz 主催の3日間セミナー „Karl Marx—Persönlichkeit, Umwelt und Werk“

5月3日—7日

Friedrich-Ebert-Stiftung 主催の奨学生セミナー „Die Welt seit Marx“

5月6日

Friedrich-Ebert-Stiftung の歴史部会

入門セミナーと講演

Gesellschaft für Nützliche Forschungen 主催

3月21日(木) 午後8時

Dr. H. Monz (トリール), Die politische und soziale Situation des Trierer Raumes zur Jugendzeit von Karl Marx.

トリール市立国民高等学校主催で、3月27日—4月18日に下記のセミナー。

- A. Rollinger (トリール), Die ökonomischen Theorien von Karl Marx.
 E. Sandbach (トリール), Die politischen Schriften von Karl Marx.
 H. Monz (トリール), Die Religionseinflüsse auf Karl Marx in Trier.
 H. Monz (トリール), Karl Marx und Trier.
 R. Laufner (トリール), Schrifttum von und über Karl Marx.

[資料Ⅱ] 上記中のシンポジウム „Karl Marx heute“ のプログラムの詳細。

1968年5月5日トリール市立劇場におけるカール・マルクス生誕150年記念シンポジウム。

ドイツ・ユネスコ委員会主催、ユネスコとトリール市協賛

テーマ 今日のカール・マルクス

午前10時—午後6時。

挨拶：Georg Eckert (ブラウンシュヴァイク, ドイツ・ユネスコ委員会会長)

Jeanne Hersch 夫人 (パリ, ユネスコ事務局長代理)

主報告者：Ernst Bloch (チュービンゲン)

副報告者：Robert C. Tucker (プリンストン), Ernst Fischer (ウィーン),

Joseph Macek (プラハ), Adam Schaff (ワルシャワ), Leo Valiani (マイラント), Julius Braunthal (ロンドン), Siegfried Landshut (ハムブルク)

閉会の辞：René König (ケルン)

註 記

- (1) UNESCO 主催の SYMPOSIUM と並行して, Treviris の大ホールで Internationale Marx-Kundgebung der Sozialisten in der „Treviris“ が開催された。これには Sowjetbotschafter Zarapkin, Helene Weigel, Prof. Dr. Abendroth, ZK-Mitglied der SED Dr. Hoernig たちが参加したと報道されているが、プログラムなどの詳細は明らかでない。
- (2) Karl-Marx-Ausstellung im Simeonstift の開会にさいしては、マルクスの曹孫 Jean Longuet が出席した。